

作曲家の声を聞く 幻想的な時間

フアンタジック

現代ピアノの前身であるフォルテピアノがウィーンに登場し、活躍し出したのは18世紀末のこと。その時代に書かれた、様々なスタイルのフアンタジー（幻想曲）——内省的な独白、デクラメーション、セクシオンごとに分かれたほぼ典型的な形式のものから、自由で即興的要素の強いものまで——をお聴きいただきます。フアンタジーは当時、レチタティーヴォとも呼ばれており、「語り」として理解されていました。演奏者はものがたりを語る、語り手の役目を担っていたのです。歌詞の有無に左右されることなく、湧き起こったインスピレーションを鍵盤上に自由に投影させた音楽家たち。それを受け止める聴衆は、あたかも歌詞のついた曲を聴くかのように鮮やかに、そして自由に想像のつばさを広げたものでした。

フォルテピアノの人間的な音色は、託された思いを雄弁にそして細やかに語り、感情のひだや表情の彩を、くつきりとよみがえらせます。

パーソナルな音楽のために選んだ空間で、ひとときのフアンタジーをみなさまと共有できればと願っております。

Profile 平井千絵 プロフィール



桐朋学園大学ピアノ科を卒業。オランダ政府給費留学生、文化庁在外派遣研修員として渡欧。デン・ハーグ王立音楽院古楽器科（フォルテピアノ）栄誉賞付き首席で卒業、同時にニコライ賞を授与される。第5回かながわ学生音楽コンクールピアノ部門総合第1位受賞。第7回園田高弘賞ピアノコンクール、第13回ファン・ヴァッセナール国際室内楽コンクール、第38回ブルージュ国際コンクールフォルテピアノ部門各第3位入賞、IYAP国際コンクール（ベルギー）で優勝。2006年にはヨーロッパ各地の音楽祭に招かれモーツァルトの協奏曲を演奏。ディアパソン、モンド・ムジクの各誌で賞賛される。オルフェオ・バロック・オーケストラとのドイツ・オーストリアツアーは、「この楽器の傑出した専門家」「音楽的直感と、銜いない名人芸」などと各誌で絶賛され、ウィーン・コンツェルトハウスでの演奏はオーストリア国営ラジオをはじめEU各国のラジオ局で放送される。

リサイタルシリーズ「ウィーンのパianoに魅せられた作曲家たち」は、「彼女が古楽に限定されない、良い耳と作品に対する誠実さを備えた優れた奏者であることを示している」（ムジカノーヴァ、08年1月号）、「音の粒の美しさは宝石か真珠のよう、音域による旋律の表情の違いは、時には木管楽器か弦楽器のような旋律ごとの対位的独自性を示すが、演奏全般は実にデリカシーに富み、その味わいの深さは格別」（ショパン、08年1月号）など各誌で好評を得る。

ハーグ王立音楽院教授スタンリー・ホッホランド氏との4手連弾のデュオ活動のほか、ソロ、アンサンブルをヨーロッパ各地と日本で活発に行っている。今秋には、フィンチコックス・コレクション（イギリス）にホッホランド氏とともに招かれ、19世紀イギリス・ピアノフォルテ楽派の作品を演奏する。

鈴木秀美氏とのデュオCD、メンデルスゾーン：チェロとピアノのための作品全集は、平成18年度文化庁芸術祭優秀賞受賞、NHK BS「クラシック倶楽部」、NHK教育「芸術劇場」で放映される。神奈川県出身。オランダ、デン・ハーグ在住。

平井千絵 Official Web site <http://www.chiehirai.com/>

チケット発売 2009年4月10日[金]
チケット取扱い イープラス <http://eplus.jp/>（パソコン&ケータイ）
東京オペラシティ チケットセンター 03-5353-9999
東京古典楽器センター 03-3952-5515
ピアノ・エ・フォルテ 03-5284-8538 office@chiehirai.com

後援：オランダ王国大使館 社団法人日本演奏連盟 桐朋学園音楽部門同窓会
協賛：自由が丘 真珠 たまてぼこ
主催：ピアノ・エ・フォルテ

お問い合わせ ピانو・エ・フォルテ 03-5284-8538 office@chiehirai.com



近江楽堂 東京オペラシティ 3F
京王新線「初台駅」東京オペラシティ方面出口3分
新宿区西新宿3-20-2 Tel. 03-5353-6937



2009年10月11日[日] 東京オペラシティリサイタルホール
次回リサイタル予告 ウィーンのパianoに魅せられた作曲家たちVol.5 ショパンの円熟期 ロンドン・エラルル(1845)とともに
ショパン：バラード3&4番、フーガ 短調、幻想曲、マズルカ作品50 ほか